夕刊
八月三十日發行
定價 一ヶ月金五十錢
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇一六・五五八五番

天氣豫報
小名濱測候所觀測

今晩は北東の風曇驟雨模様
明日は北東の風時化模様

平雜感（一）
島田忠夫

□

平へ、今回私が歸つたのは、實に何年振りかである。市になつた平へ歸つて、實に快く感じたのであつた。

これには、おのづから色々の理由があらうと思ふ。今度も、田町の木兎荘を宿にさせて頂いて、至極のんびりとして暮らさせて頂いた。のみならず、晩霞先生御夫妻の、心おきなくしかも豐かに御もてなしを戴いたのは、旅人の感傷を、實に和らげて頂いたわけであつた。

□

平は、躍進した。

今までも、私は平に好感を持たなかつたことがない平を、郷土に持つほこりを充分に感じ、また喜び、感謝してゐる者である。それゆゑに、市となつて、新しき地歩を占めた躍進平の爲めに、讃辭より外に今のところ持合せがない。

□

全く、躍進、平市の發達は目ざましい。舗裝道路もうれしく、街路樹も鮮やかである。商店のはつらつとした、進展ぶりも目ざましい。

しかし、それ以上に嬉しかつたのは、平市民の文化的進出である。今回私は、本紙の後援のもとに、日本畫個人展を開いた。會場はシルトモ・ホールである。而して八月十五、十六の兩日で、實に四百名からの來觀者を得てゐる。十五日より次の十六日が多い。この四百名の來觀者は、芳名簿に御署名下された人々である。御署名下されなかつた人もかなり多くはなかつたらうか？と思ふ。

□

兎に角、平市が二日間の畫展の爲に、數百名の來觀者を送るといふことは、一つの驚異である。私は數年前水戸市で個展を二日開き二百名からの來觀者を得た平市のは、まさに倍である東京では、二日で數千名の來觀者を得たが、これは百貨店方面の、大がかりな宣傳による。あゝ、躍進、平市の文化的進出の素晴しさよ!!

てがみ
TS生

兄さん おてがら たてたとサ
干柿 どしたと かいてある
干柿ァ たいらが たべちやつた

9・1

△上野青森鐵道開通（明治二四）△關東大震火災（大正一二）△竹久夢二歿（昭和九）△新勅選五氏決定（同一一）

立花少尉戰傷 而遷
珠雲 小野務平

窮竟男兒愧死全
募兵挺身賭坤乾
火丸不畜溺腔血
隻手揚々歌凱旋

その日〳〵

ぼつ〳〵と二百十日の草の原　凡々

西瓜と子供
柿坂伯歩

○縁側に子等並びゐて西瓜切る母の手許をじつと見てをり
○裸にて西瓜をたゝきはしやげるかなしき兒等を妻よ叱るな
○籠りゐて待ちわびし子が西瓜食み一日の鬪ひこと足れるらし
○兄と爭ひ西瓜食ふべし故里の三十年の昔今も思ひ出づ

桐の花
關昭一郎

桐の花 咲いた
高い高い 枝に
桐の花 匂ふ
露に露に ぬれて
桐の花 呼ぶよ
白い白い 雲を
桐い花 光る

月に月に 青く
桐の花 落ちた
草の草の 中に

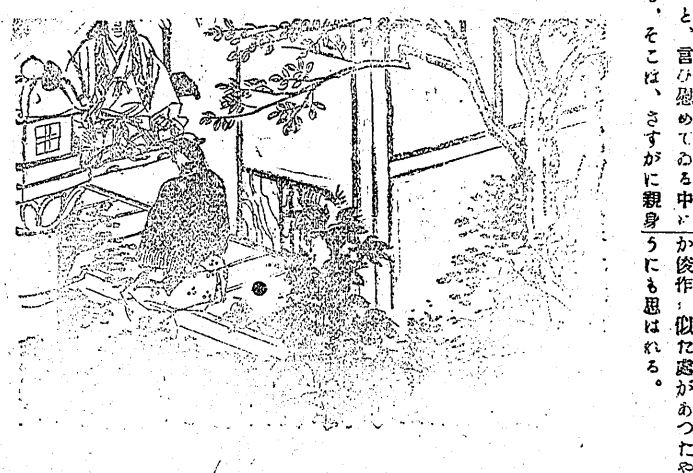
汽車で見た村

汽車の窓から
見た村は
うつすら 露に
暮れてゐた
子守が小路に
立つてゐて

ぼんやり ランプが
ついてゐた
うまやの馬は
もう寢たか
ひつそり 炎が
白かつた
ボウと汽笛は
こだまして
山に入れば
夜だつた

講談 隱密小天狗（おんみつこてんぐ）
(113) 中川雨之氏作 近藤[illegible]氏畫

運命の縺れ



『左様――心當りといつては別段に無いけれど、早速戸田氏の友人たちを問合せてみませう。何が幾つたことでも聞き込んだら、すぐにお知らせ致さうから――しかし餘りくよ〳〵と、心配なされぬが宜い。心配するほどのことは決して無い、と恐ふから、あまり心を痛めて病でも惹き起しては大變だから』

と、言ひ慰めてゐる中も、そこは、さすがに親身の情合、三郎兵衛も、いかに胸一ぱいになつて、つい眞劍すぎるほど眞劍になつてしまつた。

が、やがて、はつと氣が付いて、暇乞もそこ〳〵に俊作の家を出ると、彼は直にその足で、牛込の正雪の家を訪れた。

『や、御苦勞。して首尾はどうであつたな』

正雪は待ちかねてゐて、顔を見るなり問ひかけた。

『生憎、家に居りませんで殘念でした』

『なに、不在――』

正雪は、ぴりりと、眉を動かして。

『それは、いつ頃からで』

『留守居の者の申しますには、一昨日の晩、家を出たきりだといふことで』

『ふむ、一昨日の晩、ちやうど飛鳥山の夜のことだ』

『さうです――あなたに、何にかお心當りでもありますか』

『いや、別に』

と、正雪は、慌てゝ横を向いて。

『別段に、心當りといつては無いけれど』

と、言葉を濁した。

同時に、正雪の俊作に對する疑ひが、だん〳〵濃厚になつて來た

さう云へば、闇の中にちらりと見た怪漢の姿。何處か俊作に似た處があつたやうにも思はれる。

『追手の浪士を斬つて逃げたのも、恐らく彼ならば出來ることだ。だがさうなれば蠱龍飛劍の毒汁の働きは一體どうなつたのであらうか。彼は現在何處でどうして居るのだらう生か死か』

兎に角、俊作の行方を搜すことが、もつとも急務であつた。それを知ることがすべての謎を解く鍵であつた。

正雪の心の中では、いま專ら俊作の行方を搜すことについての智略が練られてゐる。

それは、三郎兵衛も同じことであつた。しかし、二人の目的は違つて居た。

正雪は、殺さうとするのである。三郎兵衛は、救はうとするのである。

運命の糸の奇しきもつれである。

さて、惣五郎に救はれ、橋場の家に運び込まれた俊作の安否は如何に――？

橋場のお蝶は、いま裏手の臺所口から、ソツと姿を現はした。

藥土瓶土鍋などを載せてそれに布巾をかぶせた盆を持つてゐる。

そして始終、あたりに氣を配りながら、植込の陰をくゞつて、例の崖下に在る小屋の方へと、進んで行くのであつた。

その小屋は、兄の惣五郎が、一味の浪士たちを相手にして、ツイ先頃まで、具足の密造をやつてゐた、彼の問題の小屋である。

が、昨今はもう、空家になつてゐるその小屋の入口に近づいたお蝶。

突で、もう一度、警戒するやうに、あたりを見直して、開き戸に手が懸ると、パツと幻影のやうに素早く中へ飛び込んでしまつた。

それは朝の辰刻であつた

東京上野驛前 下谷郵便局角
旅舍 大幸館
電話下谷(83)六七七番
私は平市出身ですから特に郷里の皆様方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

或は下痢或は胃腸を害ねたりして三日四日も便通がなくて頭痛を覺ゆる御方はキヽメの早い
靈効散 胃腸藥 を御試し下さい
胃腸病。心臟病。腦。痔。滋陰藥
三年五年と患ふ慢性胃腸病が全快した人が澤山あります御望の方には見本藥一日分を差上げますから御遠慮なく御來局下さい。
平市古鍜冶町縣社ノ下
處方調劑所 阿康藥局
電話四四番 振替口座東京三〇〇六番
定價 五十錢 八日分 壹圓 廿日分
御子様方には飲み易い小兒靈効散があります。

スピード時代に パーマネント
健康美時代に潑剌と オゾン美顔術
婦人御洋服にパーマネント 値段 全部四圓 外三圓
水野化粧院
平市驛前 電話 營業六七八 自宅五二五

外科、內科 エツキス光線科 新設 産婦人科 入院隨意
平市田町 院長 安齋徹 醫學士 黑澤
安齋醫院 電話四七五番

夏知らずの――小瀧は招く
一日の淸遊には…… どうぞ小瀧鑛泉へ！
鐵道指定旅館 割烹 小瀧鑛泉
電話小名濱一〇三

タヒ 甘鯛
エビ マナ鰹
白魚 帆立貝柱
冷カツノコ ウニ貝焼
[illegible] 凍魚
鮮魚問屋
電話八一尾一番ヨリ迅速ニ致マス。

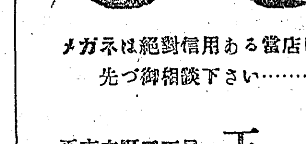
診療科目
一、齒科一般 保存科、補綴科、齒槽架工科 齒列矯正科、小兒齒科、齒槽膿漏科
一、口腔外科
一、レントゲン科
平市田町（松月堂向ひ）
中野齒科醫院 （電話五〇九番）
院長 日本齒科醫學士 中野惠次
日大齒科醫學士 鹽谷伍郎
補綴部主任 佐藤重義

吸入用酸素
モノサシ マス ハカリ
關內藥局 電話四〇番

暑中御伺
平みやげ 米やの最中
暑中御見舞 御中元各種折詰
高級最中 米や最中專門店

日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社特約店
福島縣平市一丁目（電話六十一番）
株式會社 關彰商店平支店
本店 茨城縣下館町 電話五五、三三九番
支店 茨城縣土浦町田宿 電話六五三番
茨城縣久慈町 電話一三七番
茨城縣多賀郡（大津 電話一四七番）
福島縣平驛前 電話五四番
福島縣四倉驛前 電話四八番
福島縣小名濱町
油槽所（常磐線泉驛前）
海岸給油所（大津港、平潟港、江名濱）
ガソリン給油所（土浦町新國道日本石油給油所 電話八二番）

生花教授
池ノ坊 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平市四丁目和泉屋旅館
須藤まつの

メガネ專門の店

メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

難波醫院
內科 小兒科 入院應需 自炊の便あり
平市大町 電話五〇二番
（看護婦見習、看護婦募集）
醫學博士 難波陸

ラヂオの故障は――放送局指定相談所へ
ラヂオの故障の多い季節になりました
修理は測定裝置技術完備の弊店へ
放送局指定ラヂオ相談所
HK受信機配給所
富永ラヂオ店
平驛前 電話四九六番

重田眼科
眼科一般 眼鏡檢定
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
醫師 重田景治
平市田町一番地

三昔餘り灯った紅燈 愈よ近く滅するか？
鎌田遊廓に時潮は迫る

從來幾度か廢止問題が持ち上り乍ら、地元が相當古い丈けに容易に徹底的の整理が斷行されず、今尙ほ各地に殘喘を續けて來た縣下の公娼は、時局下の風俗取締りから愈よ今後一切の新規出願を許さぬと云ふ建前の下に、實は當業者の自覺に訴へて一日も早く其の全廢を期する方針に出で昨三十日を以て縣からの通牒が、現在鎌田町に該當事項を有する平署にも入つた

鎌田遊廓は明治四十年五月十六日の町會に於て「平町字川寄レ十一番より十七番まで田反前七反歩此の買收金九百四十五圓同町字佃九番より十番まで田反別二反歩此買收金三百三十圓、合反別九反歩此の買收金千二百七十五圓、右地所を買收し平町所有財產として之を貸座敷營業者に賃貸し以て町歲入の增加を圖らんとす」の發案を即決し、當時紛々たる一部の猛反對を押し切つて之を敢行し爾來目まぐるしい町勢伸展の圏外に超脫して今日迄特異の存在を見せて來た情緒の巷で先年廢業及び火災の爲めに半減し今でこそ僅かに二軒、娼妓數二十八名を算するに過ぎぬが、未だ尙は商町方面が發展しなかつた當時殊に往年の好況時代に於ては不景氣知らぬ紅燈絃歌の歡樂境として濃艷な豪華風景を見せたものであつた

差當り第三種料理屋(私娼)方面へでも轉向を望んで居る丈けで別段直に廢業を强制する樣なこともなささうであるが、何れにせよ曾ては多恨な相思の男女が、永遠の生命に入らんとする死の欣求に、啜り泣き度い樣な法悅に浸つた夢も無きにしも非ざる物語りめいた五色町の灯が其の跡を絶つの日の遠からぬ運命に置かるるに至つた事は固苦しい理くつは拔きにして一寸寂しい感じがせぬでもない

三の兩日石城郡下を視察する、日程左の如し

(第一日)午前九時四倉着沼の內辨天、豐間燈台を經て小名濱へ、水產試驗場、製氷、日食、測候所等を見學泉村篤農家志賀源之助氏方の農事狀況を見て市內鶴や旅館一泊

(第二日)神谷農試分場から篤農家草野村高木誠氏方を見て四倉町捺鹽場から富岡へ

けふ署長會議
青柳警察部長來平

旣報、時局案件の盛られた豫通り警察署長會議は今三十一日午前九時から平署會議室に開き四倉、植田、平、原町、浪江、富岡、中村の各署長出席

縣から青柳警察部長、藥袋特高、箱崎保安課長、警務課鈴木警部、經濟係三林警部補らが臨席した

嵐かも知れぬ
明二百十日に
小名濱測候所 赤信號

獨り農家ばかりでなく種々なる意味に於て地上一圓の厄日である二百十日は愈よ明日である。各方面の一兩日來の豫想を綜合すると大体平穩に過ぐるらしく觀られてゐたが小名濱測候所の豫報では

風雨强く波高く暴風雨の惧れあり警戒を要す

と云ふ事になつて居り決して油斷は許されぬ雲行きに在る、即ち現在氣壓の配置は

七三五ミリの颱風が小笠原島八丈島の中間東經一四〇度北緯三二度五に在り北方に向ひ時速約一〇キロを以て北進しつつあるので此儘推移すると房總半島から內陸に上る結果成る程度迄荒れねば納まらぬが幸にして之が北々東若は北東にそれると銚子沖合邊から海へ出てしまうので海面は時化るが陸上はさしたる事が無くして濟むものゝ海陸何れかの荒れは殆ど豫定の事實なので警戒が要すること勿論である

双葉中堅講習生見學

双葉郡中堅農民講習生は武田技手引率の自轉車隊を組織、來月十二

傷病兵に捧ぐる赤誠
見よ軍國女性の心意氣
好間の金成とし子さん

「一家から一人も軍人の出ないのが殘念です……」と時局に刺戟された一女性、軍國の秋に咲いたこの大和撫子の心意氣が當局を喜ばせた

好間村上好間字大畑農好四郎さんの妹金成とし子さん(三二)は兄好四郎さんが第一補充兵であり乍ら未だ活躍の時機に惠まれぬのをもどかしがり數日前平署へ出頭して迸る愛國の熱情を打ち明け『女の身のせめて銃後にあつて御國の爲に傷ついた兵隊さんの衣類の洗ひ濯ぎか、見習看護婦にでも……』と斡旋方を申し出たので坂本兵事主任もこの健氣な心根に感激、早速平職業紹介所と連絡をとつて本人の意思に副ふべく奔走することゝし當人はその足で紹介所を訪れ種々依頼して一と先づ村へ歸つた、同所でも少からず之に動かされ兄好四郎さんの承諾書等を取揃へた上本格的斡旋に乘り出すことになつてゐる

同家は父親が去る昭和四年一月死去以來前記好四郎さん(三四)が後を繼いで相當手廣く農業を營んでゐる、母親ハルエさん(五四)姉ハツエさん(三)弟好明君(一九)と好四郎さんの妻子が居り、とし子さんは市內藤田女學校を卒業後、家事を手傳つてゐる明朗な女性であると

銃後の龜鑑だ 坂本兵事主任談

平署坂本兵事主任は——健氣な心意氣には全く感激の外ない、斯樣な女性があつてこそ銃後陣は一層固うされるのだ、極力本人の希望に副ふやう努力する

とし子さんの話

兄は以前脊髓を患つたことがある、この非常時局に御國のために働くことの出來ないのは殘念です私のやうなものでも働かせて戴かれたらほんとうにうれしう御座います

立澤紹介所長の話

立澤平職業紹介所長は語る

本人の眞劍さには心打たれた、身体も丈夫だし兄さんの承諾次第聯隊區職業補導部とも連絡をとつて熱誠に酬ゆる準備を整へて居ます

時は流る
鎌田遊廓の諮問案
平の貸座敷沿革

當町に於ける遊廓たる維新後新開町に設置せられたりと雖も、彼の娼妓解放令の發布と共に之を廢止し、爾來各地に在りては或は之を繼續し或は之を新設したるも獨り本町は其の機會を逸し、延いて今日に至りしなり、抑も本町の如きは本郡の樞府縣下の一大雄鄕を以て目せられしも戶數二千四百五十、人口一萬五千を有し、特に近時工業熱の勃興と共に諸事業頻りに起り隨つて商賈の來往勞働者の出入漸く頻繁なり、此の趨勢により觀察すれば近き將來に於て市たる資格を得るや蓋し空想ならざるべし、町の發展夫れ斯くの如し、町民たるもの之を賀すると同時に彌々倍々努力し向上し一大發展を期せざるべからず、然れども一利あり一害の伴ふは古今の常態にして爰に大に憂慮措く能はざる問題あり、こは近時人口の增加と共に彼の最も嫌忌すべき酌婦及び酌婦的藝妓の數日一日より多きを加へ滔々乎として殆ど底止する處を知らざるの勢なるが如し、故に風紀に衞生に其害實に云ふに忍びざるものあり、若夫れ今にして之が救濟の策を講せず自然の成行に放擲せば終に救ふ能はざるの悲境に陥るや明かなり果して然らば大にしては國家の元氣生產力を減耗し、小にしては一家の不和衰頽を來すや必然たれば片時たりとも決して忽諸に附すべからざる極めて重要事と云はざるを得ず。今茲に衞生上禍害の事實を擧ぐれば客年一月より十一月に至る間醫師の治療を受けたる花柳病患者は實に千二百六十一人の多きあり、之を總人口に比較するときは十一人八分に對し一人の割合に該當す、尙は進んで賣藥による患者を調査せば蓋し其の五割以上の數を得る知るべきのみ、然らば之の最も恐るべき害毒は如何にして芟除するを得べきか之れ他なし遊廓設置の一策あるのみよ斷言せざるを得ず、彼の娼妓なるものは每月一回檢徵の規定あるを以て之に接するも比較的病毒に感染せざるや推理上當然の結果なりとす、されば遊廓設置は害毒芟除上唯一の策にして一には衞生を保持し、二には風儀を修正し、三には町の繁榮を來すや智者を俟つて知るべきに非す、故に我町現時の狀態に照し、遊廓設置は刻下の緊要事たるを認め、爰に之を諮問する所以なり、云々

明治四十年五月十六日

平町長 伊坂員正

陣中を聽く
(227)

內地の水害を聞き 一時は全く驚いた
市內田町出身 五十畑光君(通信)

兄上の御便り本月二十六日受信致しました、其の懐しき筆蹟久々にて拜見致し元氣さを知り大に安神致しました、その思慮深い御氣遣ひ本當に勿体ないと思つて居ります、此度は內地一帶近年稀な大水害の有つた由聞き及び心配の餘り外出の序に新聞を買ひ求め福島版に目を通して見ました細々しい事は判明しませんが好間隅田川坑の水害二百萬圓餘に及ぶと云ふ慘狀、各鐵道の不通とたより、一時氣を揉みました。其後矢吹君への通信によれば思つたより石城地方は他に比較すれば損害の割合に少かつたことで先づ一と安心致しました、うちも今建築事業が主な由、被害は大してないだらうと思つて居ります三阪線の方面も相當な被害があつた事と思ひます、事業も一層繁忙なる許りですね(略)內地もいま軍需資源の節約の爲め色々な代用品を奬めて居る樣ですが、ガソリン代用品とてはなく、積極的な制限のため定めし活動に御努力が要ることゝ存じます、さて當地へ來てより約四十日になりますが一日も仕事らしい仕事もせず毎日の待機生活に腕が呻つて居ります、昨今の陽氣では朝晩非常に涼しく、どうやら之で暑さも峠を越したのではないかと感じます之れより先進む處○○か○○か何れにしても未だ確乎たる命令もなく從つて日取りも殊更判らず、幾日待機してゐる事やら見當が附きません、種々な噂も耳にしますが恐らく自分らが待ち望んだ事が近くなつたのではないかと思ひます

平市會は來月五日(內定)

平市會は來月五日午前九時招集と內定した附議事項は一般補給金の配分に伴ふ特別稅戶數割其他賦課稅率の變更、十三年度追加更正豫算、公會堂使用規定制定、寄附採納

三大炭礦水上爭覇
來月四日磐炭プール

三大炭礦水の爭覇戰として例年炭礦從業員の血を沸かしてゐる日本礦山協會仙台地方委員會主催礦山水上競技選手權大會は來月四日午後一時から磐城炭礦プールに開く、種目左の如し

△自由型 百米、四百米、千五百米

△二百米平泳、百米背泳、二百米リレー、三百米混繼泳、八百米リレー

雨で道路欠壞

昨夜の降雨で箕輪村大利地內にて道路欠潰あり、交通杜絶に陥つたので目下復舊作業中幸ひ死傷はなかつた

東海林一等兵戰死

磐崎村上湯長谷字力石東海林勇一等兵は滿ソ國境で戰死した旨入電あつた、勇君は同村小野田坑の合宿を營む喜代昌さん(五三)てうさん(五三)夫婦の三男で出征前滿鐵消費組合の事務員をつとめてゐた孝行者であつた

賣上代を橫領 市內

月見町古物商加藤大三郎(四三)は昨年六月五丁目齋木よしの方から木彫大黑天像を貰つてやると持ち出しこれを八圓で賣却、今年七月は四町目海產物商宍戶屋こと松崎喜一方から白鞘日本刀(時價三十圓)一振の賣却方ゞ依賴され長橋町小野貌一に二十八圓で賣り飛ばし賣上代をやらずこの外同樣手段で合計十件(被害)百五十圓の詐欺橫領を働いたこと發覺、平署へ

靜夜に聽く秋の聲
有卦、二日續きの休日

暦九月

殘暑も法師蟬の聲のうすれゆくと共に去り、露しげき朝夕はそろ/\袷ほしい位のうそら寒さ。梧桐の葉づれ、銀河の冴ゆ、默して語らぬしづか夜に深い秋の聲をきくあすから爽涼九月だ。

0

大震災記念日の朔日は今年も厄日二百十日、雲の往き來を氣遣ふお百姓さんの顔、稻田はもう今が大事な出穗の端季だ——夏休みに鍛へた健康色に輝く兒童の顔も、二學期を迎へて自づ緊張する。

0

蚊や蚤の猛威も衰へ燈下に親しむ蛾—讀書子。日曜が四回、彼岸の中日の二十四日から二十五日の日曜へ二日續きの休み。体位向上の線に沿うて颯爽とハイキングもよからう

△一日 二百十日
△三日 時局肥料對策懇談會(第三校)
△十一日 二百廿日
△十二日 けふから五日間防空演習
△十八日 今、明兩日飯野八幡祭典
△二十日 同神社武運祈願祭、武道大會開催
△二十一日 彼岸入り
△二十三日 社日
△二十四日 秋季皇靈祭 秋分
△二十五日 庚申
△二十九日 甲子

丙種運轉士試驗

仙台遞信局の小型丙種運轉士試驗は來月四、五、六の三日間に亙り四倉町實踐女子青年學校で執行するので受驗者の爲め去る十三日から三週間の講習會を開いてゐる

尙は來月六日から三日間臨時船舶職員試驗も行ふ

官衙公署
後納電報

明一日から電報規則が改正となり平局では料金後拂の取扱制度を實施する、これは官廳及地方自治体に限り適用されるもので頼信の簡易化を圖る趣旨を徹底したもので詳細は平郵便局に問合せられたいと

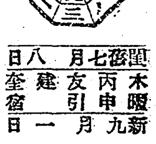
定期種牡馬檢查

十三年度定期種牡馬檢查日割左の如く決定

十月十二日上遠野村 同十三日平市

耕整組合認可

上遠野村大字瀧部落では過般來耕地整理組合設立に關し縣に申



閏七月八日 木曜 丙申 友引 建 奎宿 新九月一日

[illegible]認可された

鑑判定座右 東京市本郷區湯島四丁目 高島易斷總本部 神宮館

▲一白 待ちに待ちたるかん露の日和何事も進みて吉▲二黑 行くところ可ならざるなし旅行開業何れも大吉▲三碧 行樂神まうでは可なれども新き事業はつゝしむべし▲四綠 他人の言に動かさるゝ時は失敗を見るべし▲五黃 踊りたいましみ人言を尊重すれば吉日たるべし▲六白 少しの障りは打ち開きつゝ進み進めて吉し▲七赤 信用を重んじ秩じよをみださぬ樣にすれば吉日▲八白 此の所勇氣を出してすゝむのが有利たるべし

一日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前七、二五 後七、五五
干潮 前一、三〇 後一、三五

高久病院 平市田町 (電話五三一番)
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
醫學士 高久 忠
新潟醫學士 赤羽 淵
藥劑士 佐竹 菊雄
(看護婦至急募集)

夜間 診療
胃腸 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
松村胃腸性病科醫院 (平市南町 電一〇一七番)
(見習看護婦募集)

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報 (1部10セン)
…お取次致して居ります…
(平2) 西村藥局 (電3)

產科 婦人科 花柳病科
午前 宅診 午後 往診 入院 應需
井坂醫院
平市田町 (元合澤醫院跡) 電話五五九番